

新しい美浜の学校教育に関する基本方針及び 小中一貫教育学校の整備に関する基本構想・基本計画の 策定に向けた住民説明会

令和8年4月
美浜町

1

次第

1. 開会

- ・教育長より開会挨拶

2. 小中一貫教育に関する説明

- ・小中一貫教育及び小中一貫校整備の背景（経緯）について
- ・小中一貫教育に関する制度説明
- ・有識者による講演会（映像）
- ・事例紹介（小中一貫教育・学校施設整備について）
- ・今後のスケジュールについて

3. 質疑応答

4. 閉会

2

小中一貫教育に関する説明

【本日の内容】

1. 小中一貫教育及び小中一貫校整備の背景（経緯）について	P4
2. 小中一貫教育に関する制度説明	P19
（有識者による講演会（映像））	（別冊資料）
3. 事例紹介（小中一貫教育・学校施設整備について）	P27
4. 今後のスケジュールについて	P57

3

1

小中一貫教育及び小中一貫校整備の 背景（経緯）について

4

1 小中一貫教育及び小中一貫校整備の背景（経緯）について

1-0. 我が国の教育に関する基本認識

(1) 教育を取り巻く社会情勢の変化

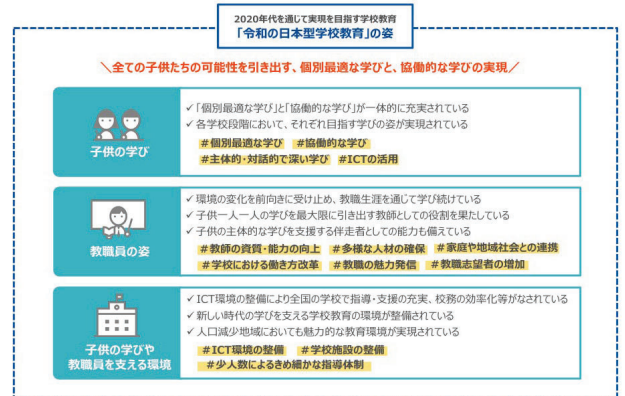
- 近年、Society5.0※時代への移行、先端技術の高度化、VUCA（変動性/不確実性/複雑性/曖昧性）と言われる予測困難な時代の到来、新型コロナの感染拡大などの社会変化に直面
- 少子化・人口減少の進行で2040年には18歳人口が約90万人（現在、約120万人）にまで減少

※Society5.0：IoTやAI、5Gなど情報のネットワーク技術の進化・高度化による革新技術を、産業や社会生活に取り入れてイノベーションを創出し、一人ひとりのニーズに応じた社会的課題を解決していこうという新たな社会の考え方。

(2) 新たな時代の教育が目指す姿

- 中央教育審議会の答申にて「令和の日本型学校教育」の構築を目指すことが示される
- 「日本社会に根差したウェルビーイング※の向上」を基本方針に掲げ、「持続可能な社会の造り手」となる能力の育成を目指す

※ウェルビーイング：身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念



5

1 小中一貫教育及び小中一貫校整備の背景（経緯）について

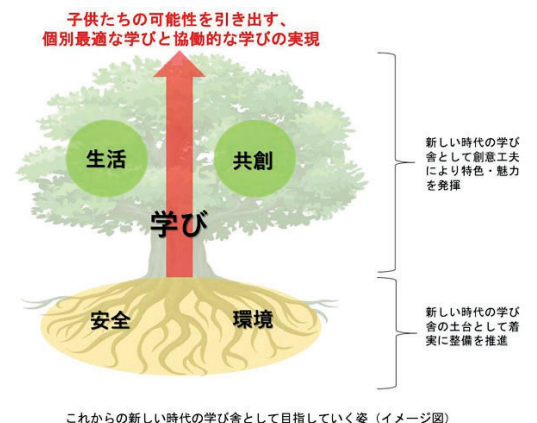
1-0. 我が国の教育に関する基本認識

(3) 学校施設の現状と課題

- 現在の我が国の学校施設は、昭和40年代後半から50年代に建設されたものが多く、老朽化が進行
- 機能面では、画一的な教室配置が多く、多様な学習活動に対応した空間が不足
- その他にもバリアフリー化の遅れ、医療的ケアに対応したスペースの不足などの課題も多い

(4) 新たな時代における学校教育の在り方

- ”Schools for the Future：「未来思考」で実空間の価値を捉え直し、学校施設全体を学びの場として創造する”というビジョンが提示
- ビジョンに基づき、「未来思考」と「可変性」の視点をもった学校教育の在り方を考える必要がある



6

1 小中一貫教育及び小中一貫校整備の背景（経緯）について

1-1. 我が国の学校教育を取り巻く現状と課題

【全国的な状況】

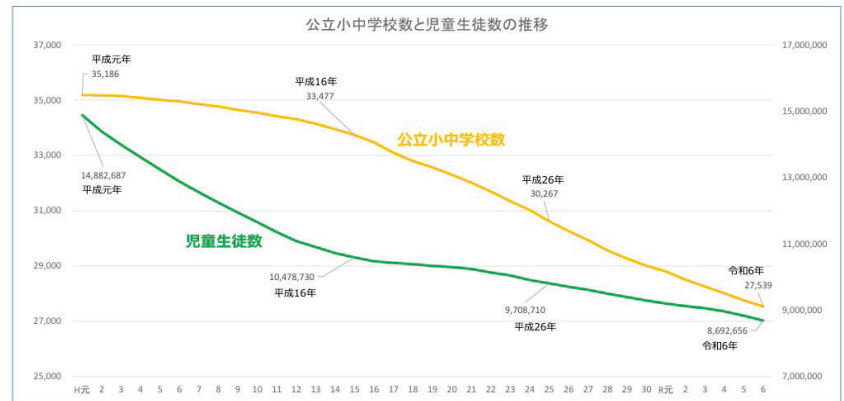
- 日本全体で少子化が進行
- 多くの自治体で児童生徒数の減少、学校の小規模化が進行
 - 公立小学校の約4割
 - 公立中学校の約5割が標準規模を下回っている



学校のあり方について将来を見据えた見直しが必要な時代へ

※参考
小学校、中学校の学級数は12学級以上18学級以下が標準
(学校教育法施行規則第79条)

公立小中学校数と児童生徒数の推移



出典：文部科学省 R6年度学校基本調査

7

1 小中一貫教育及び小中一貫校整備の背景（経緯）について

1-1. 我が国の学校教育を取り巻く現状と課題

【学校規模／小規模校の課題】

① 人間関係・社会性における課題

- 学年1クラスなどの小規模な集団では、日常的に関わる人間関係の幅が限定され、人間関係の変化や新たな関係づくりを経験する機会が少なくなる可能性がある
- 集団の中で役割を分担したり、異なる意見を調整したりする経験が限定され、多様な価値観に触れる機会が少なくなる可能性がある

② 学習面における課題

- 少人数指導は丁寧な指導につながることを期待されるが、多様な考え方や切磋琢磨する環境に触れる機会に乏しく、学習面での刺激や相互作用が生まれにくい可能性がある
- 教員体制によっては、指導の専門性や指導方法が学習成果に影響しやすい可能性がある

8

1 小中一貫教育及び小中一貫校整備の背景（経緯）について

1-1. 我が国の学校教育を取り巻く現状と課題

【学校規模／小規模校の課題】

③学校運営・行事等に関する課題

- 学校行事や部活動について、規模や内容の選択肢が限られ、合同実施や内容の簡素化が必要となる可能性がある

④将来の適応や進学に関する課題

- 小規模な集団で学校生活を送った後、中学校や高校などで大人数の集団に入ること、環境の変化に戸惑いや不安を感じる可能性がある
- 初対面の人と関係を築いたり、多様な人の中で自分の考えを表現したりする経験が相対的に乏しく、自己表現や対人関係に不安を感じる可能性がある

9

1 小中一貫教育及び小中一貫校整備の背景（経緯）について

1-2. 美浜町の学校教育を取り巻く現状と課題

【美浜町の現状】

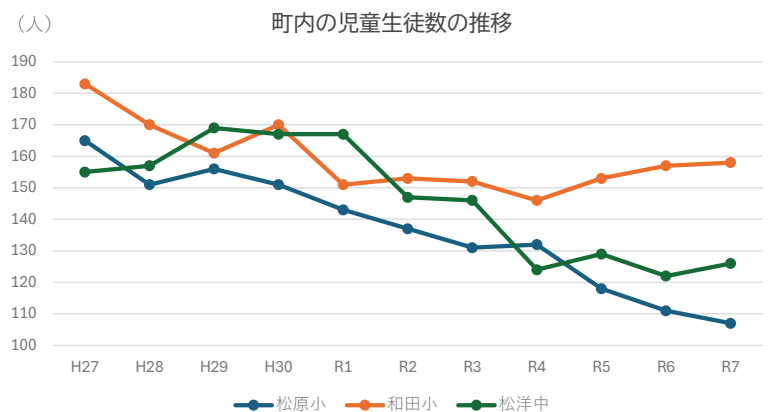
- 本町でも児童生徒数は年々減少
- 小学校、中学校ともに少人数での学習環境となっている
- 今後も、急激な増加は見込みにくい



学校規模の小規模化が進む中で

- 子ども同士の関わりの幅が減少する
- 集団で学ぶ経験が減少する
- 教職員体制の確保が難しい

など、将来を見据えた検討が必要



出典：美浜町提供資料をもとに作成

10

1 小中一貫教育及び小中一貫校整備の背景（経緯）について

1-2. 美浜町の学校教育を取り巻く現状と課題

【学校施設の老朽化】

● 両小学校の老朽化

- ・昭和40年代に建築された両小学校は、校舎全体が建築当時の考えに基づいて造られているが、すでに建築から50年以上経過しており、建物・設備ともに老朽化が進行していることから、現在の教育に合わせた設備の更新や改修等を行うことも難しくなっている

松原小学校



昭和41（1966）年竣工
耐震工事：平成20（2008）年
各教室に空調設備を設定：
平成25（2013）年

和田小学校



昭和44（1969）年竣工
耐震工事：平成21（2009）年
各教室に空調設備を設定：
平成25（2013）年

11

1 小中一貫教育及び小中一貫校整備の背景（経緯）について

1-2. 美浜町の学校教育を取り巻く現状と課題

【学校施設の老朽化】

- 現校舎建築時に想定していなかった学びの多様化への対応が困難
 - ・DX化に伴うICT機器の環境構築には、現在もその都度対応しているところではあるが、元々の校舎の造りはそういったものを利用することをまったく想定しておらず、対応に限界がある
 - ・中央教育審議会より答申された「令和の日本型学校教育」では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現が提唱されており、建設当時の画一的な教室だけでなく、個別学習や少人数学習、また、多様な他者との協働学習にも柔軟に対応することができる多目的スペース等の学習環境が必要とされている




このような状況から、これからの時代に合わせた造りの学習環境が必要であり、現在の老朽化した校舎では、対応に限界があったり、対応できないことが多々ある

12

1 小中一貫教育及び小中一貫校整備の背景（経緯）について

1-3. 美浜町のこれまでの経緯

	美浜町	国
H19年		・学校教育法第21条に「義務教育9年間の目標」が明記 →全国的な小中一貫教育の展開が加速
H20年	・三尾小学校と和田小学校が統合 → 新たな和田小学校 (三尾地区へのスクールバス運行開始)	
H27-28年		・「義務教育学校」を制度化する「学校教育法の一部を改正する法律」が成立・公布、翌年施行 ➡ 法制度化
R5年	・12月議会の一般質問にて、「 両小学校を統合した新しい学校の建設について具体的に検討する必要がある 」と回答 ➡両小学校について統合に向けて取り組むことが明確になる	〈新設された制度〉 義務教育学校 ・1人の校長 ・9年間の一環カリキュラム ・小中免許の併有等を前提
R7年	・3月議会の一般質問にて、「 統合小学校の設置場所や新校舎を始めとする各種施設の概要、小中一貫教育導入の有無といったグランドデザインに着手する 」と回答 ・10月に「美しい美浜の学校教育に関する基本方針」および「基本構想・計画策定」の業務委託公募を実施 ➡12月に㈱地域計画建築研究所（アルパック）が優先交渉権者に選定、契約	 自治体の実情に応じた導入が可能に

1 小中一貫教育及び小中一貫校整備の背景（経緯）について

1-4. 美浜町の小学校・中学校が大切にしていること

【各学校の教育方針】

松原小学校	和田小学校	松洋中学校
		
<p>■基本目標 自ら考え健康で心豊かな子どもの育成</p> <p>■めざす児童像 ◇じっくり考え、表現する子ども ◇自他の命を大切にすること ◇助け合い、励まし合う子ども ◇何事にも全力を出して、最後まで取り組む子ども ◇ふるさとを知り、愛する子ども</p>	<p>■教育方針 民主的な人格の形成をめざし、心身ともに健康で豊かな人間性を培うとともに、社会の変化に主体的に対応し、意欲的に学ぶ力や生涯にわたって自己を高めていく力の育成に努める</p> <p>■教育目標 「自ら学び たくましく生きる 心豊かな子ども」 ○進んで学ぶ子 ○明るく思いやりのある子 ○健康でたくましい子</p>	<p>■教育目標 豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒を育てる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命を尊重する心や他人を思いやる心を持つ生徒 2. 基本的な生活習慣を身につけ、きまりを守り、自分の行動に責任を持つ生徒 3. 自主・自立の心と強い意志を持ち、実践する生徒 4. 自ら生きる目標を求め、その実現に努力する生徒 5. 感謝の心や公共のために尽くす心を持つ生徒

1 小中一貫教育及び小中一貫校整備の背景（経緯）について

1-4. 美浜町の小学校・中学校が大切にしていること

大切にされてきた教育の考え方


- ・ 小学校：子ども一人ひとりに目が行き届く、きめ細やかな指導を大切に
- ・ 中学校：学力向上とともに、社会性や主体性を育む指導を大切に

子どもの成長を支える日々の取組

- ・ 授業や学校行事を通じた、子ども同士の関わり
- ・ 教職員が連携しながら、子どもを丁寧に見守る取組

地域とともに育まれてきた学校

- ・ 地域行事や学習活動を通じて、地域に支えられ、育ってきた
- ・ 保護者、地域住民の協力による教育活動
- ・ 学校文化や伝統の継承



これからも大切にし、
新しい学校においても
引き継ぐべき考え方

15

1 小中一貫教育及び小中一貫校整備の背景（経緯）について

1-5. 小中一貫教育で期待される効果（国の調査資料より）

①小中の「段差」の解消

小学校から中学校へ進学する際には、「学級担任制から教科担任制への移行」「定期テストの開始」「学校生活の変化」など大きな環境の変化がある

小中一貫教育では、9年間を見通した指導により、いわゆる「中1ギャップ」の緩和が期待される

②学習の連続性の向上

小学校と中学校が連携して「指導方法」「学習規律」「評価の考え方」などを共有することで、9年間を通じた学びの連続性が確保され、基礎学力の定着や学習習慣の形成につながることを期待される

③社会性・協働性の育成

異学年交流や縦割り活動を通じて「年下の子どもを支える経験」「年上の子どもに憧れる経験」が生まれ、思いやりや協働性などの社会性の育成につながることを期待される

④教職員の連携強化

小学校と中学校の教員が、「情報共有」「合同研修」「相互授業」などを行うことで、児童生徒の状況を継続的に把握でき、きめ細やかな指導や支援が可能になることが期待される

16

1 小中一貫教育及び小中一貫校整備の背景（経緯）について

1-6. 効果を踏まえた美浜町の状況

●美浜町の現状

- 本町ではこれまでも小中連携教育を推進してきたが、近年は「児童生徒数の減少」「学校規模の小規模化」が進んでおり、子ども同士の関わりの幅や多様な価値観に触れる機会が限られる可能性がある
- また、小学校から中学校への進学時には「学習方法」「学校生活」「人間関係」などに大きな環境の変化が伴い、子どもが戸惑うケースもある

●今後の考え方

- こうした状況や、これまで積み重ねてきた小中連携の取組を踏まえ、その延長・発展として小中一貫教育の導入へ
- 国の調査でも効果が示されている「9年間を見通した教育」という考え方を取り入れ、美浜町にあった形で小中一貫教育の導入を検討していく

17

1 小中一貫教育及び小中一貫校整備の背景（経緯）について

1-7. 美浜町としての現時点での考え方

これまでの整理を踏まえて...

『児童生徒数の減少や学校規模の変化』『町がこれまで大切にしてきた教育の考え方』『学校現場で積み重ねられてきた取組』などを総合的に捉えて、将来の美浜町の学校教育のあり方を考えていく必要がある

町としては、『**2つの小学校の統合**』と、『**小中一貫教育の導入**』に向けた検討をスタートさせる

18

2

小中一貫教育に関する制度説明

19

2 小中一貫教育に関する制度説明

2-1. 小中一貫教育とは

【小中一貫教育が求められる背景】

- 小・中学校が共に義務教育を形成する学校として、小・中学校の系統性・連続性
 - ・ 小学校と中学校は同じ義務教育9年間を担う学校であり、学習内容や生活指導を系統的・段階的に積み重ねることが重要
 - ・ 学校段階の区切りにとらわれない一貫した教育の仕組みが求められている
- 教育内容・学習活動の質的充実のために長期的視点に立った指導の重要性
 - ・ 知識・技能の定着や思考力・表現力の育成には、9年間を見通した計画的な指導が不可欠
 - ・ 短期的成果だけでなく、小学校、中学校の先生がともに15歳の子どもの姿をイメージした、子どもの成長を長期的に支える教育体制の構築が必要とされている
- 発達の早期化等に関わる現象（身長・体重、心の不安定さの表出の低年齢化等）
 - ・ 子どもの身体的・心理的発達は早期化の傾向が見られ、思春期への移行も低年齢化している
 - ・ 発達段階の変化に応じたきめ細かな支援体制、学校段階を越えた柔軟な教育対応が求められている

20

2 小中一貫教育に関する制度説明

2-1. 小中一貫教育とは

【小中一貫教育が求められる背景】

- いわゆる「中1ギャップ」（「小中ギャップ」）
 - ・ 小学校から中学校への進学時に、学習方法や人間関係の変化に適応できず、不安や不登校が生じる場合がある
 - ・ その段差を緩和し、円滑な接続を図る仕組みづくりが重要となっている
- 社会性育成機能強化の必要性
 - ・ 多様な価値観が広がる社会において、他者と協働し、主体的に行動する力の育成が求められている
 - ・ 異学年交流や継続的な人間関係づくりを通じた社会性の育成が重要となっている
- 学校現場の課題の多様化・複雑化
 - ・ いじめ、不登校、家庭環境の多様化など、学校が抱える課題は複雑化している
 - ・ 教職員の連携強化や組織的対応を進め、9年間を通じて切れ目のない支援体制を整える必要がある

21

2 小中一貫教育に関する制度説明

2-1. 小中一貫教育とは

【小中一貫教育の基本的な考え方】

- 小学校6年間と中学校3年間で、ひとつの連続した学びの期間（9年間）として捉える教育の取組
 - ・ 小学校6年間と中学校3年間で制度上の区切りとして分断するのではなく、義務教育9年間で一体の学びの期間として捉え直す
 - ・ 学習指導や生活指導、学校行事等を9年間の見通しのもとで設計し、子どもの成長を段階的かつ継続的に支える教育体制を構築する
- 子どもの成長や発達の流れを意識しながら、教育内容や指導のつながりを大切にする
 - ・ 子どもの心身の発達や学習内容の積み重ねを踏まえ、小・中学校間で教育内容や指導方法を系統的に整理し、切れ目のない学びを実現することを重視する
 - ・ 教職員が共通の教育目標や育成したい資質・能力を共有し、発達段階に応じた一貫した指導を行う

22

2 小中一貫教育に関する制度説明

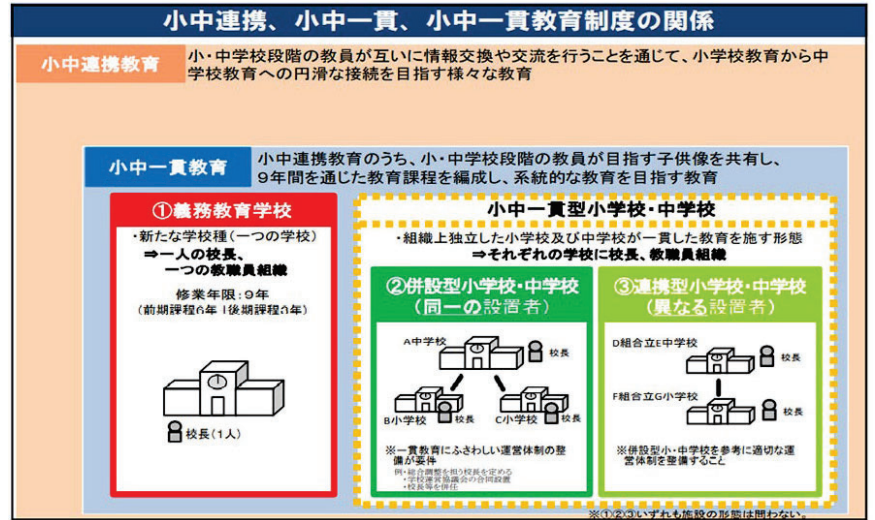
2-2. 小中一貫教育制度

①小中連携教育

- 小学校と中学校が「別々の学校」として、互いに情報交換や交流を通じて、小学校から中学校への円滑な接続をめざす

②小中一貫教育

- 小中学校が1つの学校のように、9年間の「めざす子ども像」や「教育課程」を共有し、計画的・系統的に一貫した教育を行う

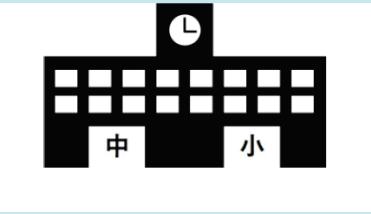
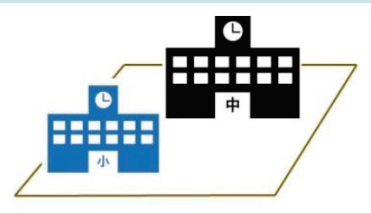
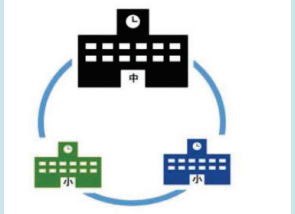


出典：文部科学省ホームページ

23

2 小中一貫教育に関する制度説明

2-3. 小中一貫校の施設形態

(1) 施設一体型	(2) 施設隣接型	(3) 施設分離型
		
<ul style="list-style-type: none"> 同じ敷地内にある校舎で、小学校1年生から中学校3年生(9年生)までがともに学校生活を送る 他の施設形態よりも小中の垣根を感じることなく、他学年との交流がスムーズに行える 校舎を新設もしくは既存施設を改修する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の小学校と中学校を利用し、小学校高学年の児童の全部、又は一部が中学校の校舎で学校生活を送ったり、週に何時間か中学校で学校生活を送ったりする 校舎が同一でないため、小学校と中学校の授業時間が異なるような場合でも柔軟に対応が可能 	<ul style="list-style-type: none"> 離れた場所にある小学校、中学校で教員や児童生徒が移動して、学習したり活動したりする 学校同士の距離がある場合もあり、他校との交流の機会が限定されることもある 一貫教育を円滑にするため、専任コーディネーターを設置する場合もある

24

2 小中一貫教育に関する制度説明

2-3. 小中一貫校の施設形態

施設整備に関するアンケート調査（国研実施）

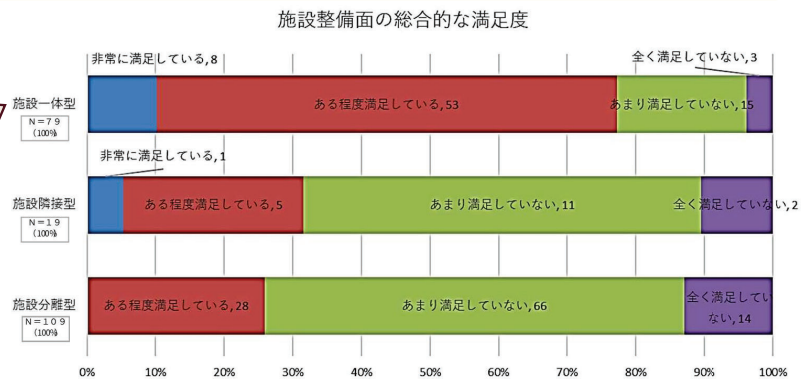
－調査概要－

【内容】全国の小中一貫校を対象に、施設の計画・設計上の工夫の整備状況、現場での評価、整備費用について調査を実施

【対象】全国の公立小中一貫校から地域バランスを考慮して抽出した286校を対象に調査を実施し、207校から有効回答を得た

【時点】平成29年3月1日

- 施設整備面の総合的な満足度は、「施設一体型」が最も高く、「施設隣接型」、「施設分離型」の順に低い



【出典】国立教育政策研究所文教施設研究センター「義務教育学校等の施設計画の推進に関する調査研究（平成30年8月）」

25

2 小中一貫教育に関する制度説明

2-4. 美浜町がめざす小中一貫教育制度

- 現時点では、町として「施設一体型の小中一貫教育校を設置する」という方向性で検討している
- 今後、保護者・学校・地域住民・児童生徒の声を聴きながら、美浜町としての考え方を整理し、美浜町にあった小中一貫教育の形を検討していく



26

3

事例紹介 (小中一貫教育・学校施設整備について)

27

3 事例紹介（小中一貫教育（ソフト面）について）

3-1. ソフト面の取組の視点

- 教育課程、教職員の協働体制、地域との関わりなどソフト面の取組によって、子どもたちの学びや成長の質が大きく左右される

○ソフト面の主な取組例

① 教育課程

- 学年の区切り設定
- 小中合同授業
- 縦割り活動、異学年交流
- 9年間を通したキャリア教育
- 9年間を通したカリキュラム
- 特別支援教育の充実

② 教職員の協働体制

- 小学校における教科担任制等の活用
- 小学校と中学校の教員の相互乗り入れ
- 教員による合同の学び合い・交流の促進

③ 地域との関わり

- 地域協働ボランティア・コーディネーター

28

3 事例紹介（小中一貫教育（ソフト面）について）

3-2. ソフト面（① 教育課程）

船橋市立若松小学校・中学校

【学年の区切り設定】

- 従来6-3制を前提としつつ、指導上は発達段階に応じた学年の区切りを設定
- 第Ⅱ期に当たる小学校5・6年生では、英語の週当たりの授業時間を延長

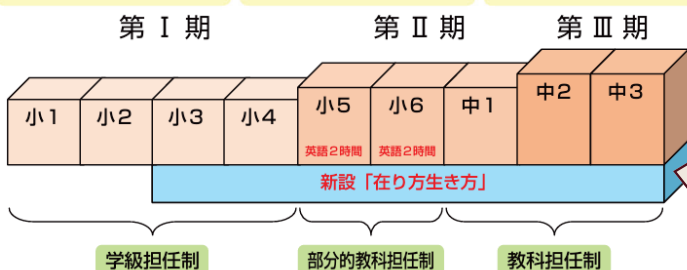
第Ⅰ期
学級担任制の良さを生かし、児童の実態を踏まえながら、基礎的・基本的な知識・技能の定着や学習習慣の確立を目指します。

第Ⅱ期
基礎的・基本的な知識・技能を活用する第Ⅱ期の学習内容を明らかにし、思考力、判断力、表現力などの育成を図ります。

第Ⅲ期
自ら課題を設定し、思考力、判断力、表現力を生かして解決していく主体的な学習態度を育成します。

【在り方生き方】

- 道徳との関連を重視した授業
- 望ましい人間関係作り、コミュニケーション能力の育成を通して、実体験に基づく道徳観を育成し、望ましい集団生活や豊かな学校生活を気づき、生きる力をはぐくみます



【出典】船橋市総合教育センター「教育情報誌 まなびの風第20号」（https://www.city.funabashi.lg.jp/shisetsu/bunka/0002/0001/0007/p009322_d/fil/manabi_20.pdf）

29

3 事例紹介（小中一貫教育（ソフト面）について）

3-2. ソフト面（① 教育課程）

練馬区立光が丘第一中学校区

【小中合同授業①】

- 小学3年生の児童に対して、中学1～3年生の生徒が「ミニ先生」として算数を教える取組
- 中学部の生徒と小学部の児童が日常的に関わる機会を意識的に設けることで、社会性を育むとともに、学習への意欲を向上

期待される効果

下学年
(小学3年生)

上級生が身近な目標となり、学びへの意欲につながる

上学年
(中学1～3年生)

頼られる経験を通して自己肯定感や責任感を育む



ミニ先生

【出典】ねりま小中一貫教育レポート第1号（平成24年6月）

30

3 事例紹介（小中一貫教育（ソフト面）について）

3-2. ソフト面（① 教育課程）

練馬区立南ヶ丘中学校区

【小中合同の授業②】

- 小学生の低学年児童が中学生の体育の授業（組体操）の見学を行い、中学生が小学生の低学年児童の倒立の練習をサポート
- 中学生がコツやポイントを伝えながら関わることで、異学年交流を通じた思いやりや協働性を育むとともに、低学年児童の運動や体力づくりへの関心を高める取組



体育の授業（組体操）を見学 ⇒ 中学生の補助を受けながら倒立の練習

【出典】小中一貫教育実践事例集（<https://www.city.nerima.tokyo.jp/kosodatekyoiku/kyoiku/gakko/ikkan/ikkankyoiku/ikkann/suisin-kaigi11.files/kenshu-2-jirei.pdf>）

31

3 事例紹介（小中一貫教育（ソフト面）について）

3-2. ソフト面（① 教育課程）

鴨川市立長狭小学校・長狭中学校

【縦割り活動、異学年交流①】

- 小学1年生～中学3年生で縦割り班を編成し、年間を通じて継続的・計画的な交流活動（春の全校イチゴ摘み、花いっぱい運動、七夕集会、全校レクリエーション等）を実施
- 小中合同運動会では、小中それぞれの競技や応援合戦に加え、異学年で協力する競技や小中合同競技、合同エール交換などを行い、児童生徒のリーダー性や可能性を広げている



【出典】文部科学省「小中一貫した教育課程の編成・実施等に関する事例集—第2版—」（令和4年3月9日）

32

3 事例紹介（小中一貫教育（ソフト面）について）

3-2. ソフト面（① 教育課程）

鴨川市立長狭小学校・長狭中学校

【縦割り活動、異学年交流②】

- 小学部5・6年生を対象に部活動体験を実施
- 中学校入学後の部活動選択の機会とするとともに、入学後すぐに公式戦出場が想定される児童の体力・技能向上を図る取組であり、小中一貫校の特徴を生かした活動となっている
- 小規模校で団体競技の単独出場が難しい中でも、児童の可能性や意欲を広げる機会となっている



【出典】学校だより第27号（鴨川市立長狭小学校・長狭中学校）

33

3 事例紹介（小中一貫教育（ソフト面）について）

3-2. ソフト面（① 教育課程）

小清水町立小清水小学校・中学校

【縦割り活動、異学年交流③】

- 中学1年生が小学6年生に向けてレクリエーションを企画し、中学校の先生に関する〇×クイズやドッジボールなどを行い、交流を深める取組
- 小学6年生が中学校の雰囲気や先生を知ることによって進学への不安が和らぎるとともに、中学1年生にとっても主体的に企画・運営する力を育む



【出典】小清水町立小清水小学校（<https://www.town.koshimizu.hokkaido.jp/elementary/detail/00003796.html>）

34

3 事例紹介（小中一貫教育（ソフト面）について）

3-2. ソフト面（① 教育課程）

飯塚市立小中一貫校幸袋校

【9年間を通したキャリア教育】

- ・ 自ら課題を見つけ、その課題を協働で解決していくPBL（Project based Learning）を中心とした教育課程を導入
- ・ 小中一貫教育の前期段階でPBLの基礎的・汎用的能力を育成し、中期以降に地域や企業と連携した課題解決型学習を実施することで、自ら課題を見つけ協働で解決する力や、自律的に学び続ける力の育成を目指す取組

基礎的・汎用的能力の育成
（前期：小1～小4）



「わたしたちができること」でのボランティア(小1)

課題解決能力の基礎を培う活動
（中期：小5～中1）



企業代表へのアイデア提案(中1)

実社会の課題を解決する活動
（後期：中2・中3）



アンケート調査結果の分析・報告(中2)

【出典】文部科学省「小中一貫した教育課程の編成・実施等に関する事例集—第2版—」（令和4年3月9日）

3 事例紹介（小中一貫教育（ソフト面）について）

3-2. ソフト面（① 教育課程）

戸田市立戸田東小学校・中学校

【9年間を通したカリキュラム】

- ・ 戸山東小・中学校では総合的な学習の時間を中心にPBL（Project-Based Learning）を取り入れ、体験を重視した探究的な学びを通して、これからの時代に必要な資質・能力を育成している
- ・ 児童生徒が課題を「自分ごと」として捉えることで主体的な学びにつながっている

※ PBL（Project-Based Learning）とは「プロジェクト型学習」や「課題解決型学習」と呼ばれ、学生・学習者が実社会の具体的な課題やテーマに対し、グループで主体的にリサーチ、仮説構築、実践を行い、解決策を提案する教育手法

東雲カリキュラム(令和2年度の実践)

学年	単元名	主な内容	本質的課題I	本質的課題II	単元目標		
					課題を発見する力 KNOW	論理的に思考する力 THINK	課題解決に向け行動する力 ACTION
小学1年生	ふゆをたのしもう	身近な自然を使った遊び	自分ごととして捉えることができること	自分の身のまわりの自然の不思議や面白さを知ることができること	冬の特徴や自然のしくみを知ることができること	遊びやルールを体験し、一緒に体験しながら学び、遊びやルールを工夫して楽しむことができること	遊びやルールを工夫して楽しむことができること
小学2年生	みんなであそぼう フリスビー、くまのぼんちのおもちゃ	身近な人々との触れ合い交流	自分ごととして捉えることができること	1年生と一緒に楽しく遊ぶことができること	どんなおもちゃで遊ぶのかを工夫することができること	1年生と一緒に遊ぶためのおもちゃや遊び方を考えることができること	1年生と一緒に遊ぶためのおもちゃや遊び方を考えることができること
小学3年生	食べて元気に	健康・食	学校生活における健康・安全のために自分ごととして捉えることができること	学校生活における健康・安全のために自分ごととして捉えることができること	食の大切さや栄養の大切さを知ることができること	食の大切さや栄養の大切さを知ることができること	食の大切さや栄養の大切さを知ることができること
小学4年生	本校会のリーダー みんなの健康・安全を守る隊	健康・安全	自分ごととして捉えることができること	自分ごととして捉えることができること	自分ごととして捉えることができること	自分ごととして捉えることができること	自分ごととして捉えることができること
小学5年生	ともに生きる	福祉	自分ごととして捉えることができること	自分ごととして捉えることができること	自分ごととして捉えることができること	自分ごととして捉えることができること	自分ごととして捉えることができること
小学6年生	戸田市に幸の花を咲かせよう	地域・人々の暮らし	自分ごととして捉えることができること	自分ごととして捉えることができること	自分ごととして捉えることができること	自分ごととして捉えることができること	自分ごととして捉えることができること
中学1年生	ともに生きる	みんなが幸せに暮らすために(SDGs)	自分ごととして捉えることができること	自分ごととして捉えることができること	自分ごととして捉えることができること	自分ごととして捉えることができること	自分ごととして捉えることができること
中学2年生	ともに生きる	身近な課題の解決(SDGs)	自分ごととして捉えることができること	自分ごととして捉えることができること	自分ごととして捉えることができること	自分ごととして捉えることができること	自分ごととして捉えることができること
中学3年生	世界とともに生きる	国際理解	自分ごととして捉えることができること	自分ごととして捉えることができること	自分ごととして捉えることができること	自分ごととして捉えることができること	自分ごととして捉えることができること

【出典】文部科学省「小中一貫した教育課程の編成・実施等に関する事例集—第2版—」（令和4年3月9日）
東雲リーフレット（<https://www.toda-c.ed.jp/digi-book/shinonome/html5m.html#page=5>）

3 事例紹介（小中一貫教育（ソフト面）について）

3-2. ソフト面（①教育課程）

鴨川市立長狭小学校・長狭中学校

【特別支援教育の充実】

- ・ 学期ごとに小中合同授業を実施
- ・ 1学期：市内の民間施設を活用し、地元の自然を生かした産業を学ぶとともに、海の生き物とのふれあい体験を通して命や環境の大切さを学ぶ
- ・ 2学期：学園で育てた野菜の収穫や調理実習を行い、盛り付け・配膳・食事マナー・後片付けまでを体験し、生活力と食育を学ぶ
- ・ 3学期：市内交流会で和太鼓や笛による祭り囃子を披露し、地域ボランティアを外部講師として招き、流鏝馬など地域文化の継承について学ぶ

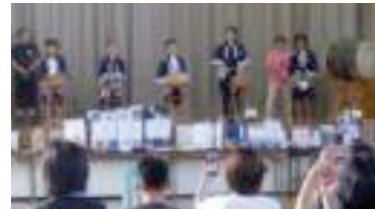
（1学期：ふれあい体験）



（2学期：野菜の収穫・調理実習）



（3学期：地域文化の学習）



【出典】文部科学省「小中一貫した教育課程の編成・実施等に関する事例集—第2版—」（令和4年3月9日）

37

3 事例紹介（小中一貫教育（ソフト面）について）

3-3. ソフト面（②教職員の協働体制）

小樽市立手宮中央小学校（北稜中学校区）

【小学校における教科担任制等の活用①】

- ・ 小学校5年生から教科担任制を導入
- ・ 音楽については専門教員による授業、理科・外国語については中学校教員による授業となるが、国語・社会・算数については学級担任間の授業交換による授業を実施
- ・ 学級担任の指導力低下を防ぐ研修や、教師同士が教科指導を話し合う機会を設けている

対象学年・教科・実施形態

- ・ 対象学年 5年、6年
- ・ 対象教科・実施形態

	学級担任間の授業交換による授業	専科教員による授業	中学校教員による授業
5年	国語、社会、算数	音楽	理科、外国語
6年	国語、社会、算数	音楽	理科、外国語

【出典】文部科学省「小学校高学年における教科担任制に関する事例集」（令和5年3月）

38

3 事例紹介（小中一貫教育（ソフト面）について）

3-3. ソフト面（②教職員の協働体制） 加東市立東条学園小中学校（義務教育学校）

【小学校における教科担任制等の活用②】

- 小学外国語・音楽・体育・図工の各教科について後期課程の教師を配置
- 教師の負担軽減に繋がるように教師の持ち時間数を軽減
- 3・4年生においても、一部教科担任制を実施することで、教科指導の専門性を磨くよい機会とするとともに、授業を通して他学級の児童理解を深め、学年経営に生かせるようにしている

特色ある教育

つなぐ・つながる学び

シラバスの作成・活用

小・中学校教職員が目標を共有し、9年間の指導方針をもとに教育を進めています。

教科担任制の充実

1・2年生 学級担任による教科指導
3・4年生 一部教科担任による教科指導
5年生～ 教科担任による教科指導

より専門性のある指導により、学習意欲の向上を図ります。



ノーチャイムによる自主性の育成

自己管理能力や自主性・自立性の育成のため、東条学園開校前の旧東条中学校で、約15年前から行われていた取組を、継続して行っています。



時計を見て行動する生徒

学校と家庭が連携した学び

家庭と連携した学びの育成

「家庭学習のすすめ」を各家庭へ配布し、家庭と連携した学びへの取組をすすめています。

連携のポイント

	第1ステージ		第2ステージ		第3ステージ
	1年・2年	3年・4年	5年・6年	7年・8年	9年
保護者の関わり	一緒に学習してやる気を出させる時期		習得を進ませて伸ばす時期		よく教を聞き、自分の力を考えさせる時期
基礎力の確立	ベース＝定めてほめて自信を持たせる				
教科学習で身に付ける	基本的な学習態度を身に付ける	自分から学習に取り組み	計画を立てて進んで学習に取り組み	課題決定に向けて目標を持ち、取組する	
平均的児童の学習時間（1コマ）	20分～30分	45分～60分	75分～90分	120分～180分	
担任制	学級担任による教科指導		一部教科担任による教科指導		教科担任による教科指導
授業時間	1コマ授業時間45分			1コマ授業時間50分（令和5年度に向けて研究）	

【出典】文部科学省「小学校高学年における教科担任制に関する事例集」（令和5年3月）

39

3 事例紹介（小中一貫教育（ソフト面）について）

3-3. ソフト面（②教職員の協働体制） 小清水町立小清水小学校・中学校

【小学校と中学校の教員の相互乗り入れ】

- 中学校教員の一部教科への乗り入れを実施
- 専門的な視点を生かした発展的な指導により、児童生徒の学習効果が向上
- 9年間の学びの系統性・連続性を意識した授業づくりが可能となり、学習内容や指導方法の段差を軽減



算数・数学科



理科



音楽科



体育科

【出典】小清水町立小清水小学校（<https://www.town.koshimizu.hokkaido.jp/elementary/detail/00003796.html>）

40

3 事例紹介（小中一貫教育（ソフト面）について）

3-3. ソフト面（②教職員の協働体制） 戸田市立戸田東小学校・中学校

【教員による合同の学び合い・交流の促進①】

- 小中学校の教員が合同で研究推進に取り組む学び合いの機会を設け、授業研究や協議を通じて指導方法や教育観の共有を図っている
- 小学校段階から中学校段階までの学びのつながりを意識しながら、教員相互が専門性を活かし合い、指導力の向上と9年間を通じた一貫した指導の実現につなげている
- 職員室にスタンドテーブルを設置しており、気軽に情報交換ができるようにしている



学び合いの場



スタンドテーブルでの情報交換

【出典】文部科学省「小中一貫した教育課程の編成・実施等に関する事例集—第2版—」（令和4年3月9日）

41

3 事例紹介（小中一貫教育（ソフト面）について）

3-3. ソフト面（②教職員の協働体制） 沼津市立第一小学校・中学校

【教員による合同の学び合い・交流の促進②】

- 中学校の教員が来校し、小学校の児童の様子を参観した後、スクールカウンセラーの講話や授業、中学校区の子供たちの様子について協議する小中一貫研修会を実施
- 9年間の学びの系統性・連続性を意識しながら授業改善を図り、よりよい授業の実現を目指す



小中合同の教員による授業参観



小中合同の教員による研修会

【出典】沼津市立第一小学校HP (<https://swa.numazu-szo.ed.jp/numazu001/weblog/130978434?tm=20251110184050>)

42

3 事例紹介（小中一貫教育（ソフト面）について）

3-4. ソフト面（④ 地域との関わり） 京丹後市立峰山学園・弥栄学園

【地域協働ボランティア・コーディネーター】

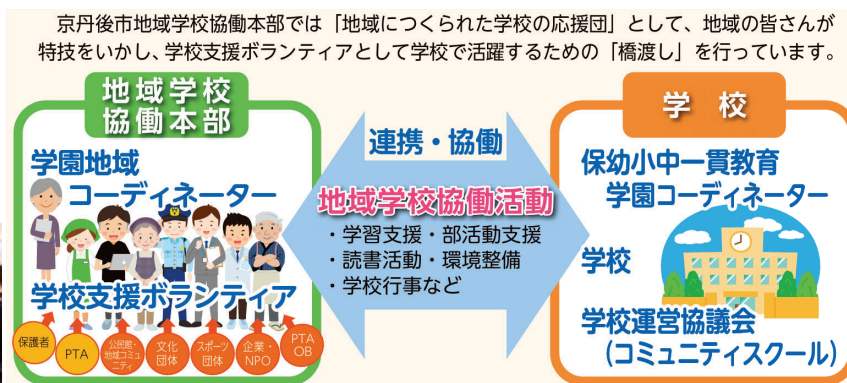
- 遠足などで引率者が足りないときや、昔遊び体験の講師を探しているなど、困っているときに、地域から人材を探すなどの地域と学校の橋渡し役となる地域協働ボランティアの方を積極的に活用



←そろばん指導補助
(弥栄小学校)



学習支援(国語:書初め)
(いさなご小学校)



【出典】 令和6年度京丹後市地域学校協働本部だよりR7.3.25

43

3 事例紹介（学校施設整備（ハード面）について）

3-5. 新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について

新しい時代の学びを実現する学校施設の姿（ビジョン）

School for the Future 「未来思考」で実空間の価値を捉え直し、学校施設全体を学びの場として創造する

未来思考の視点

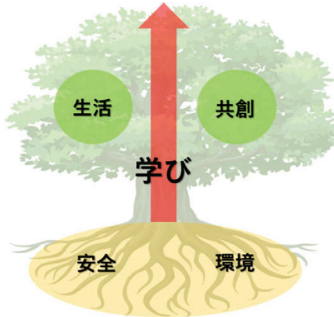
- ① 学校は、教室と廊下それ以外の諸室で構成されているものという固定観念から脱し、学校施設全体を学びの場として捉え直す。廊下も、階段も、体育館も、校庭も、あらゆる空間が学びの場であり、教育の場、表現する場、心を育む場になる
- ② 教室環境について、単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な活動に柔軟に対応していく視点（柔軟性）をもつ
- ③ 紙と黒板中心の学びから、1人1台端末を文房具として活用し多様な学びが展開されていくように、学校施設も、画一的・固定的な姿から脱し、時代の変化、社会的な課題に対応していく視点（可変性）をもつ
- ④ どのような学びを実現したいか、そのためにどんな学び舎を創るか、それをどう生かすか、関係者が、新しい時代の学び舎づくりのビジョン・目標を共有する

44

3 事例紹介（学校施設整備（ハード面）について）

3-5. 新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について

全ての子供たちの可能性を引き出す、
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実



新しい時代の学び舎として目指していく姿

「未来思考」をもった上で、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向けて、これからの新しい時代の学び舎として目指していく姿を示す

- ・新しい時代の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮するものとして、その中心となる「幹」に『学び』を据え、その学びを豊かにしていく「枝」として『生活』『共創』の空間を実現する
- ・また、新しい時代の学び舎の土台として着実に整備を推進していく「根」として『安全』『環境』の確保を実現する

- 学び** 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間を実現
- 生活** 新しい生活様式を踏まえ、健やかな学習・生活空間を実現
- 共創** 地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間を実現
- 安全** 子供たちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境を実現
- 環境** 脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境を実現

3 事例紹介（学校施設整備（ハード面）について）

3-6. 新しい時代の学びを実現する空間イメージ例（未来思考の視点を含む）と事例

これからの学校施設は、新しい時代の学びを実現していくことを基本とし、それらを具体化する施設環境を創造していく



学び
単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な学びに対応できるよう、創造的な空間に転換していく姿

学び
学校図書館とコンピュータ教室と組み合わせ、読書・学習・情報のセンターとなる「ラーニング・コモンズ」としていく姿

学び
教室と連続する空間も活用し、高機能のコンピュータ室を専門的で高度な学びを誘発する「デザインラボ」としていく姿

学び
映像編集やオンライン会議のためスタジオ、情報交換や休息ができるラウンジなど、円滑に業務を行える執務空間としていく姿

生活
木材を活用し温かみのあるリビングのような空間の中で、壁面の工夫やベンチ等を配置し、豊かな学び・生活の場としていく姿

共創
地域コミュニティの拠点として、地域や社会の人たちと連携・協働し、ともに創造的な活動が展開できる共創空間としていく姿

安全
長く使い続けることができるように安全性を確保し、子供たちの学び・生活の場、地域のコミュニティの拠点としていく姿

環境
省エネルギー化や再生可能エネルギーを導入等を積極的に進め、環境教育での活用や地域の先導的役割を果たしていく姿

3 事例紹介（学校施設整備（ハード面）について）

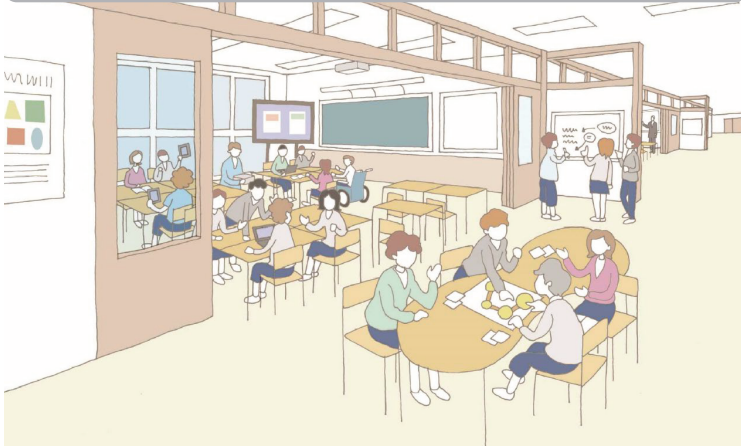
3-6. 新しい時代の学びを実現する空間イメージ例（未来思考の視点を含む）と事例

多様な学習活動を展開できる学習空間

学び

柔軟で創造的な学習空間を実現する

教室空間と隣接する多目的スペースとの連続性・一体性を確保し
多様な学習活動へ柔軟に対応していく姿



事例 東海村立白方小学校【茨城県】



- 高学年の教室とオープンスペース
- 通常時は廊下となるオープンスペースは、同学年の児童が集まる場としても機能する

事例 糸魚川市立糸魚川小学校・糸魚川市立ひすいの里総合学校【新潟県】



- ロッカーを緩衝スペースとして、教室の延長にあるオープンスペース
- 教員の机の場所は固定せず、柔軟に空間を活用
- 低学年の教室にはカーペット敷きの小上がリスペースを確保し、個別の学習部屋やカムダウンスペースとして活用

47

3 事例紹介（学校施設整備（ハード面）について）

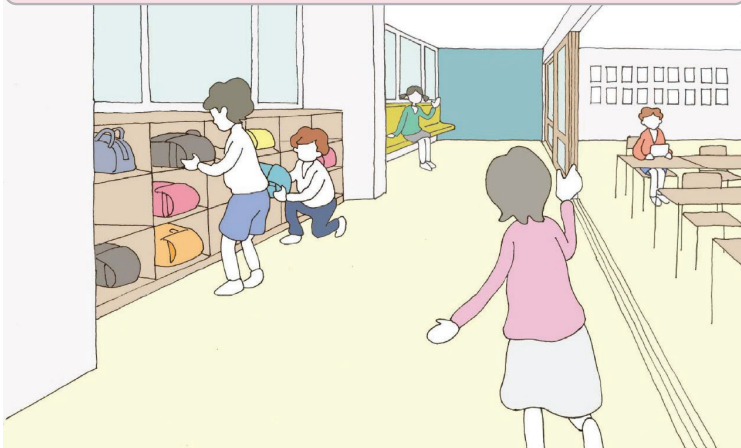
3-6. 新しい時代の学びを実現する空間イメージ例（未来思考の視点を含む）と事例

多様な学習活動を展開できる学習空間

学び

柔軟で創造的な学習空間を実現する

ロッカー等の移動可能な家具を教室外に配置し、教室空間を有効に活用していく姿



事例 糸魚川市立ひすいの里総合学校【新潟県】



- オープンスペースと教室の間にロッカーが配置
- 教室空間の有効活用を目指すとともに、教室の独立性も確保する

事例 京都教育大学附属桃山小学校【京都府】



- ロッカーとホワイトボードを兼ねた可動式の壁により、用途に応じた柔軟な空間構成が可能となる
- 多様な学習活動に対応し、児童に寄りそった快適な学習環境を整えている

48

3 事例紹介（学校施設整備（ハード面）について）

3-6. 新しい時代の学びを実現する空間イメージ例（未来思考の視点を含む）と事例

様々な教科等の教室の有機的な連携・分担による多様な活動の展開

学び

柔軟で創造的な学習空間を実現する

学校施設全体の学びの場として捉え、階段状の空間を、ステージやプロジェクト等を備えた発表・表現の場としていく姿

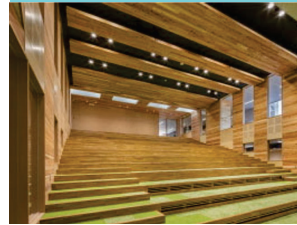


事例 福岡市立博多小学校【福岡県】



- 舞台と階段型の客席で構成された「表現の舞台」を使用する様子
- 小学校の表現実習に加え、地域住民の祭りの練習にも利用され、子どもたちが地域文化に親しむ学びの場となっている

事例 守口市立さくら小学校【大阪府】



- メディアライブラリーでは、子どもたちの自主的・自発的な学習や協働的な学習が展開されている
- 隣接する階段状のメディアホールは、調べ学習の発表の場として活用されており、学年間だけでなく、異学年による成果発表の舞台としても利用されている

49

3 事例紹介（学校施設整備（ハード面）について）

3-6. 新しい時代の学びを実現する空間イメージ例（未来思考の視点を含む）と事例

読書・学習・情報のセンターとなる学校図書館の整備

学び

柔軟で創造的な学習空間を実現する

学校図書館とコンピュータ教室と組み合わせて読書・学習・情報のセンターとなる「ラーニング・commons」としていく姿



事例 荏原平塚学園【東京都】



- 全学年が利用しやすい3階に、図書室とPC教室を一体化したメディアセンターを設置
- 周辺に和室や多目的教室を配置し、図書の閲覧を促す計画としている

事例 府中市立府中学園【広島県】



- 図書室は総合メディアセンターとして、コンピュータールームと一体化し、校舎の中心に配置されている
- 新しく入った本の紹介や、読書週間等のおすすめの本コーナーを小中それぞれに設置

50

3 事例紹介（学校施設整備（ハード面）について）

3-6. 新しい時代の学びを実現する空間イメージ例（未来思考の視点を含む）と事例

読書・学習・情報のセンターとなる学校図書館の整備

学び

柔軟で創造的な学習空間を実現する

どの教室からも利用しやすいよう学校の中心に図書館を計画し、調べ学習や自主的・自発的な学習が展開されていく姿



事例 じの丘学園【愛知県】



- 学校の中心にライブラリーと多目的スペースを配置することで、地域や子どもたちの交流が自然に生まれる場所となっている
- 土日祝日は、地域図書館「じの丘ライブラリー」として一般開放している
- 傍に併設されている大階段には、休み時間に子どもが集まっている

事例 糸魚川市立糸魚川小学校【新潟県】



- 同敷地内に隣接する、小学校と特別支援学校のどちらからも、またどの学年からも利用しやすい位置に配置されている

51

3 事例紹介（学校施設整備（ハード面）について）

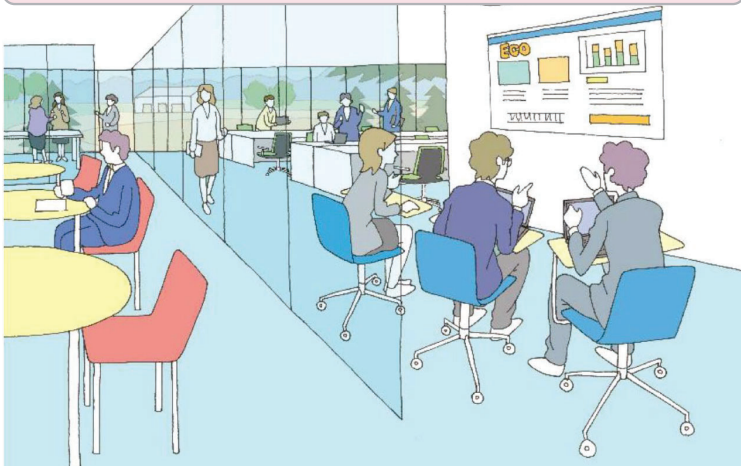
3-6. 新しい時代の学びを実現する空間イメージ例（未来思考の視点を含む）と事例

学校における働き方改革を推進し、パフォーマンスを最大化するための執務空間

学び

柔軟で創造的な学習空間を実現する

常時ICTが活用できる環境を整備し、教職員が円滑に執務、打合わせ、協働作業等を行うことができる執務空間としていく姿



事例 つくば市立春日学園【茨城県】



- 職員室と事務室を統合した校務センターをスクールアベニューに面して配置し、校内を見渡しやすい設計
- ICT機器の活用により円滑な情報共有と意思統一を図る

事例 安平町立早来学園【北海道】



- 職員室はフリーアドレスを採用し、荷物はロッカーで管理を行う
- 一部にモニターを設置しており、教職員の円滑な打ち合わせ等を促している

52

3 事例紹介（学校施設整備（ハード面）について）

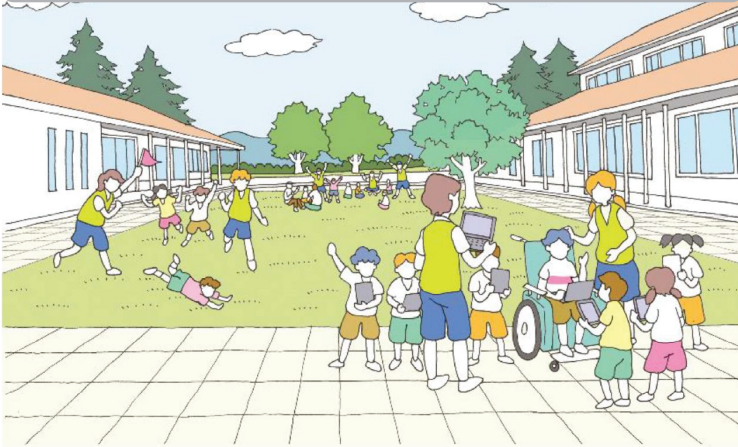
3-6. 新しい時代の学びを実現する空間イメージ例（未来思考の視点を含む）と事例

多様な教育的ニーズのある児童生徒への対応

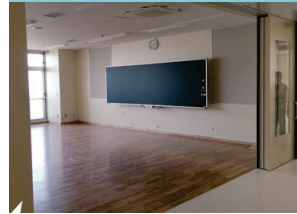
学び

柔軟で創造的な学習空間を実現する

障害のある児童生徒と障害のない児童生徒が安全かつ円滑に交流及び共同学習を行うことができるスペースを確保していく姿



事例 町田第一中学校【東京都】



- 肢体不自由学級の生徒の給食配膳や、緊急時のストレッチャー搬送に対応するため、26人乗りのエレベーターを設置している
- 段差を極力減らし、軽い力で開閉できる引き戸を採用することで、多様な利用者に配慮した校舎としている

事例 守口市立さくら小学校【大阪府】



- すべての普通教室・特別支援教室を同一フロアに配置し、インクルーシブ教育を促進する
- 3室ある特別支援教室はつながっており、支援が必要な子どもに合理的配慮が行えるよう、畳コーナーやクールダウンスペース等で構成されている

53

3 事例紹介（学校施設整備（ハード面）について）

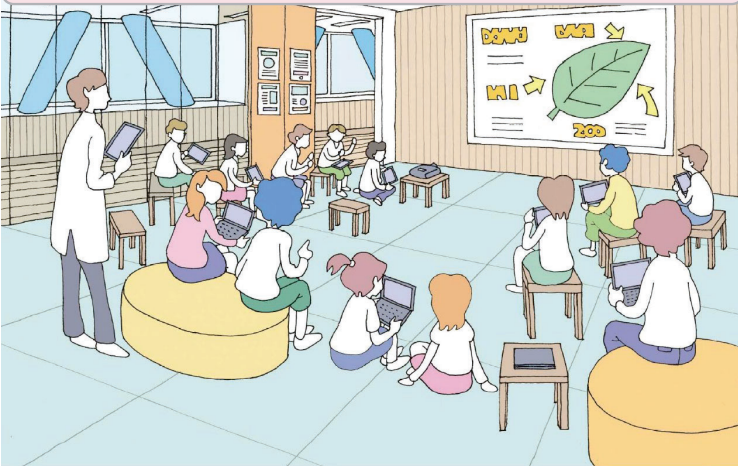
3-6. 新しい時代の学びを実現する空間イメージ例（未来思考の視点を含む）と事例

快適で温かみのあるリビング空間

生活

健やかな学習・生活空間を実現する

木材を活用して温かみのあるリビングのような空間の中で、壁面の工夫やベンチ等を配置し、豊かな学び・生活の場としていく姿

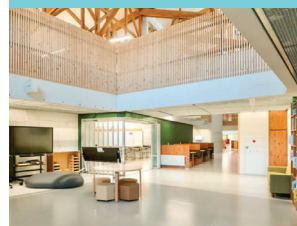


事例 新庄市立作手小学校【愛知県】



- 読み聞かせスペースや交流のスペースを設け、ゆったりとくつろげるソファ等を設置している
- あたたかみのある地元産の木材を利用した家具を設置している

事例 安平町立早来学園【北海道】



- 地元の木材を使用し、学校全体が子どもたちの学習材料となるようにする
- 多様な家具や色彩を取り入れ、街並みのように変化に富んだ学校風景をつくり、子どもたちの居場所・遊び場・学びの場を創出している

54

3 事例紹介（学校施設整備（ハード面）について）

3-6. 新しい時代の学びを実現する空間イメージ例（未来思考の視点を含む）と事例

木材利用の推進

環境

持続可能な教育環境を実現する

地域材の活用により、快適で健やかな環境を生み出し、
環境負荷の低減に加え地域の活性化や文化の継承にもつなげていく姿



事例 小田原市立大窪小学校【東京都】



- 地元の木材であるスギとヒノキを使い、知調和のとれた温かみのある教室を設計
- 学校施設の木質化により、森林環境教育の大切さについての普及啓発にもつながっている

事例 魚津市立星の杜小学校【富山県】



- 構造材の97%地元産の木材でまかなうことにより、コストや環境負荷を抑えながらも、ぬくもりの感じられる校舎を実現
- 校舎の維持管理を一部学習に取り入れることで、メンテナンス面の課題を補いながら、校舎への愛着と地域の木への関心を育む

55

3 事例紹介（学校施設整備（ハード面）について）

3-7. ハード面の検討時に大切な視点

① 子どもの学習や活動に適した多様な空間づくり

- ・ 美浜町としての子どもの特徴や卒業時の子ども像を踏まえ、
基礎的な知識・考え方・行動力を体感し、養うことのできる空間づくり

② 利用者が使いやすいシンプルで柔軟性のある各空間の設え

- ・ 子どもや教職員などの学校施設の主たる利用者が、
容易に空間の使い方のイメージを持つことができるとともに、
多様な学習や活動にも対応できる柔軟性のある空間の設え

③ 子どもがあらゆるヒト、モノ、コトと出会える空間づくり

- ・ 日常から、児童生徒同士の出会い、
児童生徒と教職員や地域住民などの大人との出会い
児童生徒と本や作品、自然などとのモノとの出会い
などの 多彩な出会いが自然と創出される空間づくり

56

4

今後のスケジュールについて

4 基本方針、基本構想・基本計画の策定スケジュール

年度	2025年度			2026年度												2027年度											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
	基本方針の策定業務 ▶主に小中一貫教育の方針を示す ▶小中一貫校としての施設形態や候補地についても一定検討する												基本構想・基本計画の策定業務 ▶基本方針を受け、目指す学校施設の姿を検討する ▶既存施設、財政収支などを踏まえ、実現性を伴う施設計画を検討する														
検討委員会	①キックオフ	②勉強会	③先進事例視察	④コンセプト・教育理念などの検討			⑤地域連携・施設形態の方針の検討				⑥基本方針案のとりまとめ	⑦基本方針の精査	①キックオフ	②先進事例視察	③施設コンセプト・施設形態の検討	④配置計画・平面計画の検討		⑤各諸室の設えの検討		⑥基本構想・基本計画案のとりまとめ	⑦基本構想・基本計画の精査						
保護者・地域			説明会①	アンケート			ワークショップ①					パブリックコメント					説明会③		ワークショップ②						パブリックコメント④		
教職員			アンケート	※適宜ヒアリング											※適宜ヒアリング												

4

開校までの想定スケジュール

